

目次

□巻頭言 建設の機械化に思う……………飯田 房太郎 / 1

□昭和47年度官公庁の事業概要

通商産業省電源開発事業の概要……………中村 範次 / 2
庄内平野における送泥客土の計画と施工……………茂野 啓一 / 8
大雪ダムの機械設備と施工実績……………相田 俊郎 / 14
今井 正司
J.C.M.A. 欧州建設機械化視察団報告……………林 正治 / 19

グラビヤ—フランス・パリ・エキスポマツト

ハノーバー国際産業見本市見学記……………森川 巖 / 32

□随想 平均気温 28℃……………丸安 隆和 / 36

□昭和46年度官公庁・建設業界で採用した新機種

建設省で採用した新機種……………中野 俊次 / 38
石 沢 利 雄
農林省で採用した新機種……………西出 定雄 / 48
日本国有鉄道で採用した新機種……………石黒 敏正 / 52
日本鉄道建設公団で採用した新機種……………桜 沢 昇 / 55
本州四国連絡橋公団で採用した新機種……………沢 田 茂 良 / 61
建設業界で採用した新機種……………佐藤 裕 俊 / 64

□建設機械化講座 第108回 現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説
3. ショベル系建設機械(その3)……………田中 成一 / 77

□研究所巡り

東京都土木技術研究所……………沢 島 村 静 男 / 86
進 之 助
三菱重工業技術本部広島研究所……………井 岡 孝 博 / 89
太 田 孝 博

第23回定時総会開催…………… / 92

□文献調査

溝掘り機と専用型わくを用いた地下トンネルの建設……………広 報 部 会 / 100
文 献 調 査 委 員 会

ニ ュ ー ズ……………(編 集 部) / 102

行 事 一 覧…………… / 103

編 集 後 記……………(西 出 ・ 牧) / 104

◀表紙写真説明▶

日立水陸両用油圧ショベル

日立建機株式会社

本機は作業水深3m、掘削水深6mのバックホウ形水陸両用油圧ショベルで、搭乗運転はもちろん、無線による遠隔操縦ができる。また水底での掘削を安全、正確、能率よく行なうため自動掘削装置、掘削深さ制御、安息角制御装置など各種の新機構を備えている。

本機は河川、臨海部などでの一般浚渫、土運船への積込みはもちろん、各種のアタッチメントを装着することにより硬土盤の掘削、岩盤の破碎などができ、各種の海洋工事での活躍が期待される。なお、本機は建設省の指導のもとに計画され、昭和47年3月末に関東地方建設局に納入された。

主 要 目

- 作業水深：3m
無線操縦可能範囲：最大半径 100m
重 量：陸上 16t (水中 11t)
機関出力：80 PS/2,000 rpm
バケット容量：0.35 m³ (山積)